

早期水稻育苗資料

平成30年2月
北筑前普及指導センター
J A む な か た

床土の準備

①黒粒培土の場合

- ・床土 2.5kg+覆土 1kg が目安。
- ・昨年開封した残りは使用しない(カビ等が発生しやすい)。

②山土の場合

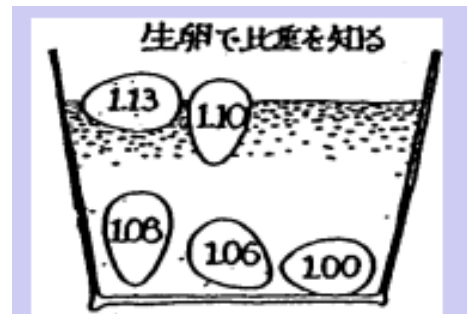
- ・pHが 5.0~6.5 (5.0~5.5 が望ましい)のものに、籾殻くん炭を容積比で3割程度混ぜる。
- ・1箱当たり4~5ℓ準備し、播種1週間前に育苗肥料 4-4-4 を混和する。
混和量は1箱当たり 30g (600g/20箱)。
- ・休耕田や紋枯病多発田、畑作後の土は使用しない。

塩水選

- ・種子が不足する場合は、塩水濃度を比重 1.08 まで薄めても問題ない。
- ・塩水選が終わったら、よく水洗いする。

比重	水 10ℓ に溶かす量	
	食塩	硫安
1.08(うるち)	1.11kg	1.46kg
1.10(うるち)	1.42kg	1.92kg

※ちなみに海水の比重は 1.03 です



種子消毒

- ・下記の2つの薬剤混用で、24時間浸漬する。

農薬名	種子	希釈水量	薬量	倍率
テクリードCフロアブル	10kg の場合	20ℓ	100 ml	200 倍
スミチオン乳剤			20 ml	1000 倍

◎種子消毒後は軽く薬液をきって、そのまま浸種にはいる。
(水洗いはしない)

◎種子消毒、浸種については、籾袋の中心まで薬液が浸透するよう、袋に籾を詰め過ぎずにならないようにする。

浸種・催芽

- ・1日1回、水を交換する(水温が下がらないよう、午前中に行う)。
 - ・浸種初日~2日間は温度を上げすぎない(10~15℃)
 - ・催芽機利用の場合は、温度を上げすぎない(30℃を超えないように)。
 - ・浸種に要する日数は6~10日、積算温度(平均水温×日数)で100℃。
- ★幼芽長 0.5~1.0 mm で9割程度芽を切ったことを、必ず確認してください!



床土消毒・播種 薄まきで、丈夫な苗を！

【苗の種類と播種量の目安】

苗の種類	目標葉齢	播種量/箱		育苗日数	箱数/10a
		乾籾	催芽籾		
3葉苗	2.8～3.2 葉	120g	150g	30～35 日	20 箱
ポット苗	4.0～4.5 葉	45g	55g	40～45 日	35 箱

・準早期(5月田植え)については育苗日数が25日～30日。

農薬	使用方法	適用病害虫	使用回数	使用時期
ダコレート 水和剤	400 倍液(10 畝の水に薬剤 25g)を 一箱当たり 500ml 灌注	いもち病 苗立枯病	1 回	は種時
タチガレエース M液剤	500 倍液(10 畝の水に薬剤 20ml) を一箱当たり 500ml 灌注	ムレ苗防止 苗立枯病	1 回	は種時または 発芽後

- ・種子消毒とダコレート水和剤灌注を組み合わせると、いもち病に効果が高い。
- ・低温によりムレ苗の心配がある場合は、タチガレエース液剤を使用する。

積み重ね出芽

①出芽

★日中、積み重ね内部の温度が上がり過ぎないように、十分注意してください！(25～30℃が目安)。

・積み重ね日数は3～5日間。芽が出そろったら(芽長 0.5～1 cm程度)、直ちに広げる。

②緑化

- ・黒寒冷紗や黒色ラブリットで覆い、緑化を行う。
- ・ハウス内の温度が30℃を超えないように注意する。
- ・苗長が4～5cmになったら被覆資材を除去する。

平床出芽

- ・播種後、日当たりの良い水平なところに育苗箱を広げ、太陽シート等かける。
- ・育苗箱の下に、パイプ又はりん木を敷くと、過剰の水分を早く取り除くことができる。
- ・降雨、露等で太陽シートの上に水がたまったら、早急に太陽シートをはぐり水を取り除く。
(水がたまったところは、発芽不良になる)
- ・ハウス内の温度が30℃を超えないように注意する。
- ・苗長が4～5cmになったら被覆資材を除去する。

硬化

- ・田植え3～5日前にハウス外へ搬出するか、ビニルを除去して外気に慣らす。

【水やりのポイント】

- ・過剰な水やりは根の張りを悪くします。
 - ・夕方に水やりすると、夜間に過湿状態となるため、根の張りが悪くなります。
- 水やりは日中に行いましょう。

